

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
福島慎太郎			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
矢野 晋吾		青山学院大学 総合文化政策学部 総合文化政策学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	AYGa-170703-0	1人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

本実習授業においては、前期に学生が自らの関心に応じて主体的に社会調査のテーマを設定した上で、調査を企画・実施した。そして、後期に調査から得られた情報をデータ化・分析し、成果を報告書としてまとめた。授業は、ディスカッションに基づいたゼミ形式で進化した。学生は、通常授業よりも主体性や忍耐がより強く求められる本実習授業を1年間を通して真摯に向き合い、成長を遂げた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

都心部と村部における「地域の幸福」

2. 調査の内容／概要：

本調査は、質問紙調査及びフィールド調査を併用して、都心部と村部における「地域の幸福」を捉えることを大きな枠組みとした。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

東京都の都市部と村部の小地域社会（字・丁目単位の地域社会）を多段抽出法により抽出した。都市部と村部の基準として、操作的に人口流入の程度を使用した（人口流入が大きい地域を都市部、人口流出が大きい地域を村部と定めた）。1段目で人口流入が大きい千代田区および人口流出が大きい檜原村を選定した上で、2段目で各市区町村の代表的な（人口流入が顕著な）小地域群（N=14）を抽出した。

4. 主な調査項目：

地域の幸福、地域の特徴、地域との関わり、地域住民との関わり、地域への感情、個人の基本属性

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

対象小地域の全世帯に質問紙を配布した。具体的には、日本郵便株式会社の郵送サービスを活用し、対象小地域の全世帯に質問紙を郵送した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査は8月中に実施した。調査地は千代田区および檜原村であり、調査員は学生1人であった。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

質問紙の有効回収数は286、回収率は18.3%であった。回収率は同手法を用いた既存調査と同程度である。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

データ分析の方法は、大きく標本を対象とした記述統計の提示と母集団を対象とした統計的仮説検定からなる。記述統計には項目ごと・小地域ごとの平均値と標準偏差、統計的仮説検定には調査項目の因子分析、回帰分析が含まれる。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

都市部である千代田区では経済や健康状況といった「個人要因」が、村部である檜原村では家族などの人間関係や自然文化などの環境との「関係要因」が、それぞれ住民の幸福感と関連していることが示された。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2018年4月に報告書を刊行した（A4版53頁）。報告書は2章から成り立っており、第1章で実施した社会調査の概略をまとめた上で、第2章で調査成果をまとめた。